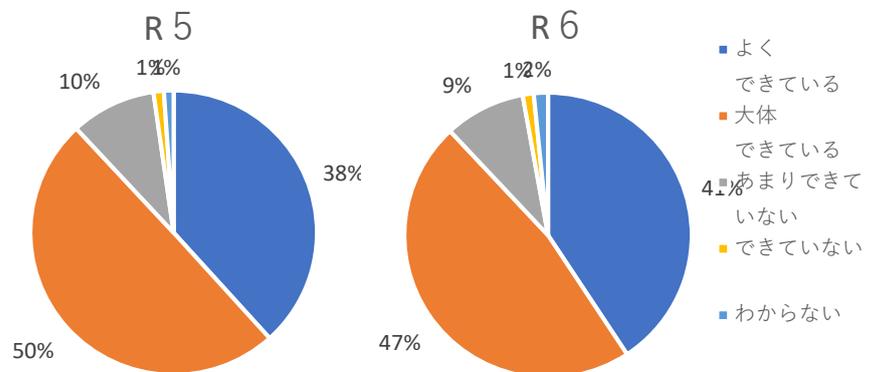


令和6年度 学校評価アンケートのまとめ

寒気の候、保護者・地域の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
さて、10月に実施した学校評価アンケートの結果が下記の通りまとまりましたので、お知らせいたします。 ※各項目において、左は令和5年度、右が令和6年度の結果です。

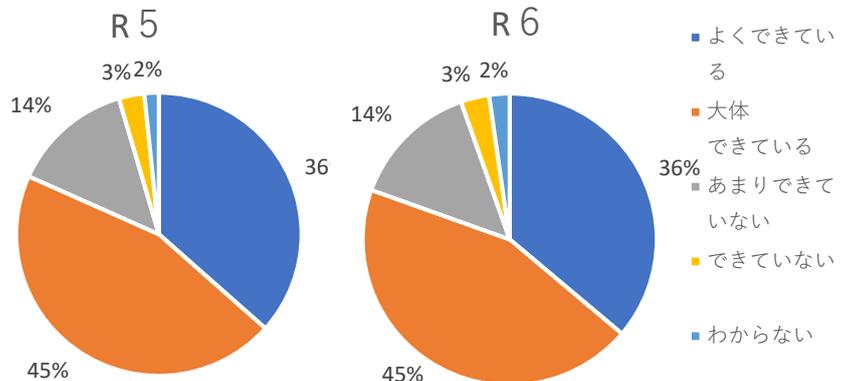
《学校教育目標について》

保護者の肯定的回答の割合が小さくなった一方で、児童については、「よくできている」の割合が大きくなった。
また保護者の回答で「わからない」の回答の割合が大きくなっている。



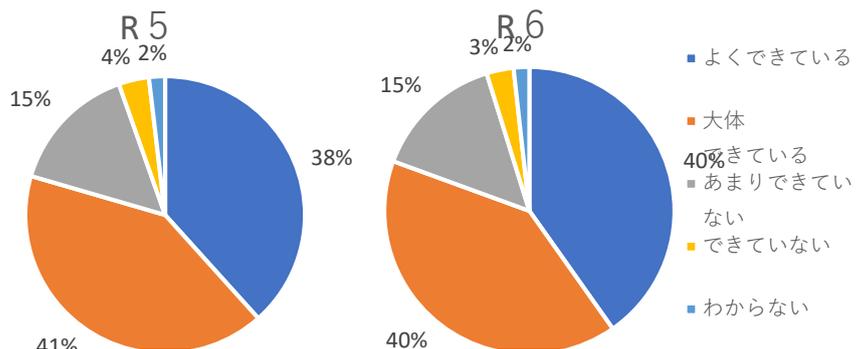
《あいさつや言葉づかいについて》

全体的に見るとほぼ同等の割合となった。保護者については肯定的な回答の割合は小さくなっている。「わからない」の回答が大きくなっている。



《指導法の工夫・改善について》

全体的に見ると肯定的な回答の割合が大きくなった。児童は「授業の内容はよくわかる」の質問に対して肯定的回答の割合が大きくなった。一方で「進んで体を動かしたり、体を動かしたり...」については小さくなっている。

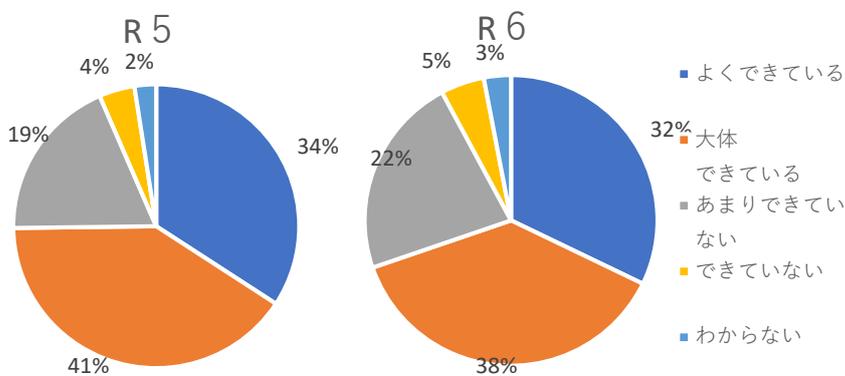


た...」...

41%

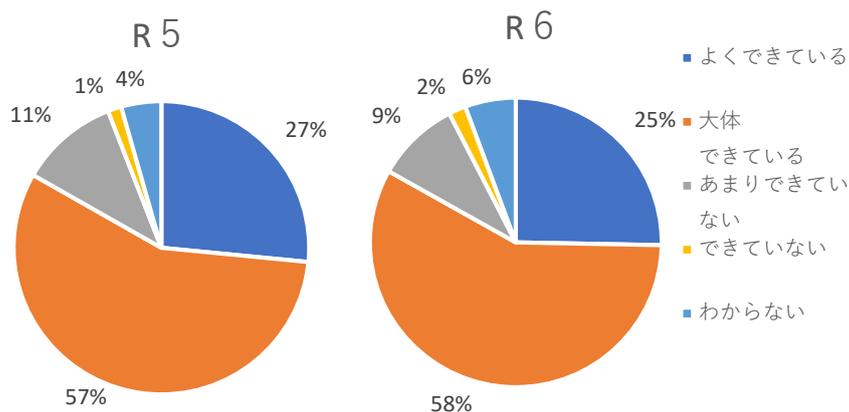
《読書活動の推進について》

肯定的な回答の割合が減少した。しかし10月の「読書キャンペーン」は意欲的に参加している児童が多く、貸出数も増えている。図書委員会から新たな提案があったり、読み聞かせのボランティアが増えたりしているので、このような取り組みを継続して、読書好きな児童を増やしていきたい。



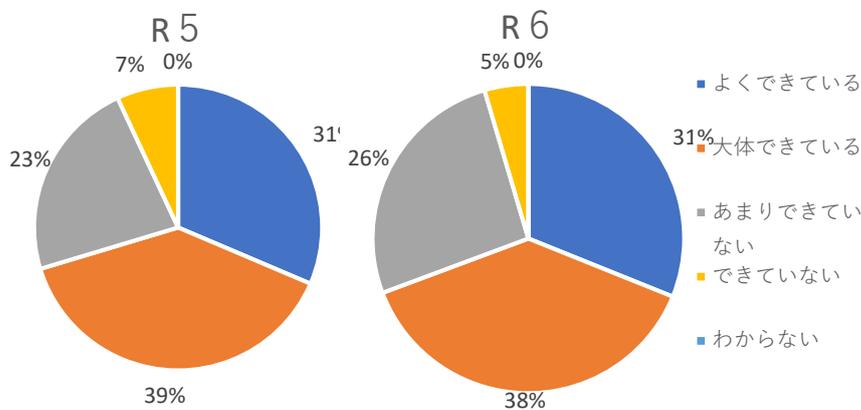
《児童の「よさ」を伸ばす教育活動について》

全体的に見ると、昨年度とほぼ同等の割合となった。「決まりや社会のルールなどを身に付ける取組を行っているか？」について、保護者は否定的な回答の割合が大きくなった。



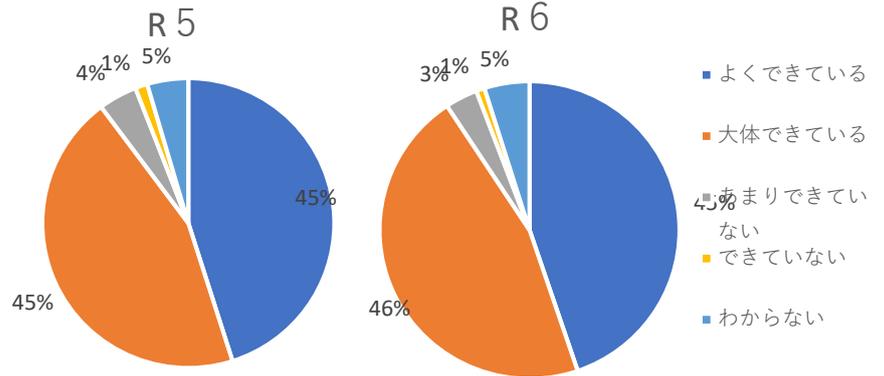
《思いや考えを伝える力の育成について》

全体で見ると昨年度とほぼ同等の割合となった。児童向け『授業や話し合い活動の中で、自分の考えを進んで発表しようとしていますか』に対しては苦手に感じている児童が多い。



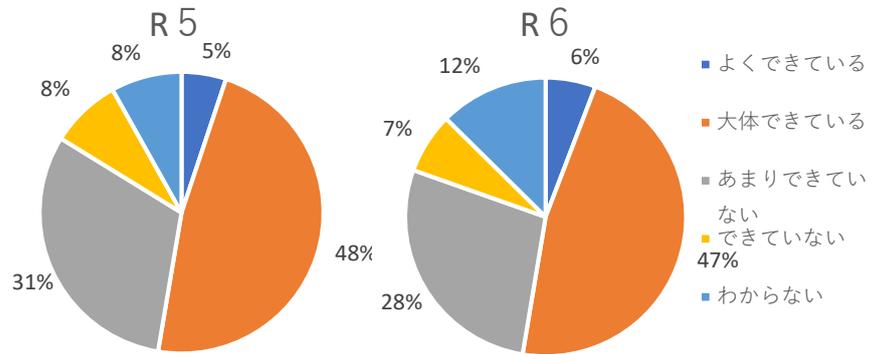
《安全・安心で清潔な学校づくりについて》

肯定的な回答の割合は前年度同等であった。しかし項目別にみると、児童向け『学校や遊びの中で、けがのないように気をつけて行動していますか?』に対する肯定的な回答の割合は大きくなっている。



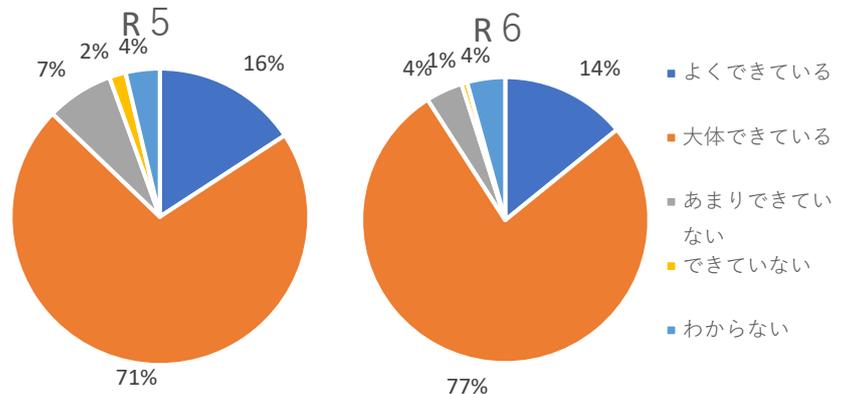
《家庭・地域との連携について》

全体的に見ると、回答の割合は昨年度同等となった。保護者向け『保護者は、学校の教育活動に積極的に関わろうとしていますか』について、「よくできている」の割合が大きくなった一方で、「わからない」の割合も大きくなっている。



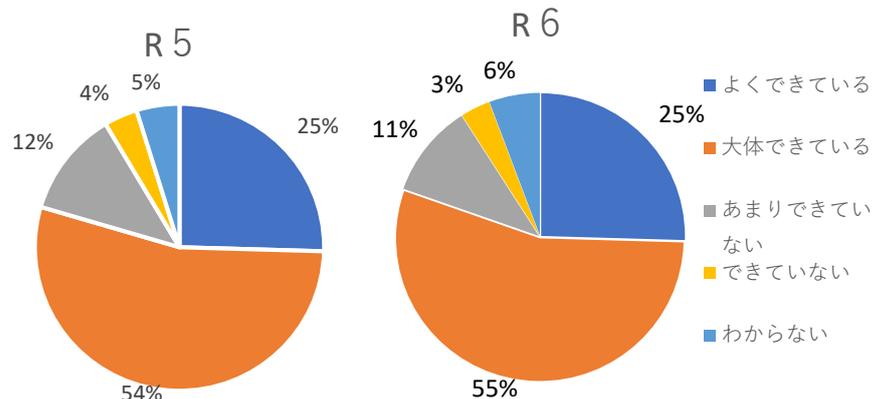
《学校情報の発信について》

保護者向け質問項目「教育活動の公開や発信」について、肯定的回答の割合が大きくなった。（否定的回答の割合が小さくなっている）



《生徒指導・教育相談の取組について》

全体的に見ると、ほぼ同等の回答の割合となった。「教育相談を受ける体制」については、「わからない」の回答の割合が増えている。一方で児童は「悩みがあるときは先生や友達に相談できる」の割合が大きくなった。



◇今年度の結果分析

〈「よくできている・大体できている」の割合が大きい項目〉

- 学校教育目標について（【児童】自分から進んで学習に取り組んでいますか）
- あいさつや言葉づかいについて（【児童】元気よくあいさつをしていますか）
- 指導法の工夫・改善について（【児童】授業の内容はよくわかりますか）
- 生徒指導・教育相談の取組について（【児童】悩みがあるときは先生や友達に相談することができますか）

〈「あまりできていない・できていない」の割合が多い項目〉

- ▲学校教育目標について（【児童】友達と協力し、思いやりをもって生活していますか）
- ▲読書活動の推進について（【保護者】お子さんは進んで本を読んでいますか）
- ▲思いや考えを伝える力の育成について（【児童】授業や話し合い活動の中で自分の考えを進んで発表しようとしていますか）
- ▲あいさつや言葉づかいについて（【保護者】子どもたちは進んであいさつをすることができますか）

◇次年度に向けた具体的な改善策

(1)学校教育目標について

教育活動全般を通して、規範意識や生命の大切さ、思いやりのある心について考えを深める。とくに道徳教育(道徳の授業)においては、「思いやり」の意味やどのような行動が思いやりをもっているといえるのか教えたり、考えさせたりする。またそのような行動・態度が見られた児童を学級で伝えたり、称賛したりしていく。思いやりのある子どもを育てるために①相手の立場に立って考えられるか②感謝の気持ちを伝えられるかについて考えさせたり、発達段階に応じて指導したりしていく。

(2)読書活動の推進について

例年実施している「読書キャンペーン」は今年度も意欲的に参加している児童が多く、貸出数も増えていた。図書委員会から新たな提案があったり、読み聞かせのボランティアが増えたりしているので、今後も新たな方策やより良いアイデアを取り込みながら、このような取組を充実させていく。

また始業前の「朝読書」の時間を大切にする。落ち着いた静かな環境をつくり、教師も児童とともに本を読み、全員が本の世界に浸れるようにしていく。

児童、地域・保護者、学校が一体となって読書好きの子どもを増やしていく。

(3)思いや考えを伝える力の育成について

各教科(授業)において、自分の思いや考えを発表する場を増やしていく。とくにG・S、総合的な学習の時間、潤いの時間などにおいて意識して授業を行っていく。特別活動における学級活動(学級会)も大切にして、普段から誰とでも話せる環境づくりに努める。さらに教職員研修を充実させて、ICTをより活用して、思いや考えがもてるような、それを伝えたいくなるような授業づくりを目指し、指導力の向上を図る。

(4)あいさつや言葉づかいについて

普段からあいさつできた児童をほめたり、大人(教師)からあいさつするようにする。また、学年に応じて段階をふんだ「あいさつ」や「言葉づかい」の目標を立てる。それを実行して毎月振り返る活動を年間を通して実施する。

校内だけでなく、共に暮らす家族や地域の方々に対しても意識を向けさせて、自然にあいさつを発することができるようにしていく。

その他、自由記述にあった要望等につきましては、今年度の教育活動を振り返るうえでの貴重なご意見として、次年度に生かして参りたいと思います。御協力ありがとうございました。

